

入
選

— 大学・一般の部 —

「やめる思いと見送る思い」

織原健人さん

推 し 本:『あひるの空』(28)

著 :日向武史

推したい相手:部活や仕事をやめようと思っている人
とやめた人を見送った人



「やめる思いと見送る思い」 織原健人

私が何かをやめようと思うときや、やめていく人を見送る時に思い出すのは、「あひるの空」のこの28巻です。この巻で描かれるお話は通常のスポーツ漫画としては異質であり、作者コメントに、「描かなくてもいいことなのかもしれません」とも記載されています。ですが、この巻からは、やめることを肯定するでも否定するでもなく、認めて寄り添ってくれる温かさを感じます。新入生の入学直前に新3年生になるはずの選手が一人退部します。ですが、怪我や新しい目標に向かってといったスポーツ漫画によくある理由によって退部するわけではありません。もともと仲のよい連れだった仲間達が、強くなり「スポーツチーム」になっていくにしたがって、チームにおいて自分の役割が見いだせず情熱が冷めてしまうのです。それに加え、新入生が入学してチームが強くなることを望むことが正しいと思いながらも、自分の役割が奪われてしまうことに怯え、入部者が来ないことを望んでしまうことや、同じレベルだと考えている選手がミスをしていることに安心を感じてしまうこと、そんな理想とは異なる自分の気持ちを受け入れることができなくなっていくます。その寂しさや自分に対しての苛立ちが絵から溢れ出しています。このような選手はほとんど漫画で描かれることはありませんし、実際この選手がここで辞めずに裏方に回ったり、新しい役割を見つけるという表現をすることもできたと思います。ですが、作者はそうはしませんでした。それは、チームスポーツは正面から捉えたいという覚悟だと思います。実際の部活では多くの人がこのような感情を覚え、一部は部活をやめていくのだと思います。また、部活に限らず、仕事や趣味においても情熱を保ち続けられず離れることはよくあることだと思います。自分も特に年齢が上がるにつれて、諦めることは増えていると感じます。この巻で印象に残っているセリフが二つあります。両方とも、やめていく部員と同学年の部員が発する言葉です。一つ目は、「続けることが美德と思われがちだが、断ち切ることだって相当の勇気がいるんだ、俺はその勇気を買うよ」という言葉です。日本では、皆勤賞の様にずっと続けることが正しいと思われることが多いですし、やめるとそ

ここまでかけてきた時間や努力が無駄になるように感じると思います。でも、そのような中、決断をした選手の勇気をたたえているのです。この発言をしている選手もやめていった選手に戻ってきてほしいとは思いながらも、留めることが誰のためにもならないことを理解しているのです。二つ目は、やめていった選手と同様に高校からバスケットを始めた選手が、やめていった選手にかけた言葉です。彼も昔、空手をやめたことがありましたが、それは虐めを行う先輩との関係性の悪化が原因でした。そんな彼が「辞める要因が”他人”っていうのは納得いかねーよな。オマエは違うんだろ?」と尋ねるとやめた選手は「ああ」とだけ答え、それに対して「ならいーじゃん。んじゃまた明日な」といって帰っていきます。何かをやめる要因はたくさんあると思いますが、他人のせいでやめることと自分の中でやめるという結論を出すことは異なります。自分で結論を出すことは、ある意味幸せなことだとも感じます。「このやめた選手はそのあとの高校生活をどう過ごすだろうか。」とこの巻を読み終えるといつも思います。実際、その後の描写は以降の巻でもほとんどなく、何をしているのか、部活以外の学校生活で部員とどのように絡んでいるのかはわかりません。ですが、わかることは、やめた部員も続けている部員も互いに相手の成功を望んでいるということです。きっと、やめた部員もやめてからは羨望の気持ちがなくなり素直に部員の成功を応援でき、残った部員も部活で活躍できていないことに遠慮してうまく話せない気まずさもなくなったと私は思います。私は、この本を今何かをやめようと思っている人や、やめる人を見送った人に推したいですが、この本を読んでもやめた方がよいや続けるべきといった答えがでるわけではないです。チームで何かを行おうとするときに、そこには全員が均等に貢献できるわけではなく、それぞれに悔しさや妬みのような醜い気持ちを持ってしまうことは当然起きると思います。その感情と情熱を戦わせながら挑戦に向かっていく中で、情熱が負け気持ちが離れてしまう時の思いやその周りの人の思いをこの巻から感じてもらえたらと思います。そして、自分や周りの人と向きあうきっかけになったらいいなと思います。また、この感想文ではあえて選手の名前を出していません。それは、どの選手がやめるのかを知らずにぜひ一巻から読み進めてほしいからです。この巻以外にもあひるの空にはとても好きな心理描写がたくさんあります。ぜひ味わってみてください。